

丸山幹治年譜・著作目録

松田 義男 編

改訂 2024 年 2 月 3 日

2004 年 10 月 16 日

凡例

年譜

- ・年譜事項は、主として、丸山幹治の著作から採録した。一部、典拠を[]に注記した。

著作目録

- ・著作は、1. 著書(共著・編著含む)、2. 評論等(新聞・雑誌掲載)、3. 「余録」(東京日々新聞・毎日新聞)に区分し、それぞれ年次順に配列した。
- ・『大阪朝日新聞』・『読売新聞』・『中外商業新報』・『京城日報』で執筆していた「社説」および「短評」欄(『大阪朝日新聞』の「天声人語」、同夕刊の「評壇」)は、無署名であり執筆者を特定できない。本著作目録では、丸山幹治「余の見聞体験せる政治的貢献」(『新聞及新聞記者』7-18、1926年10月15日)で、自身の執筆であると記している『大阪朝日新聞』・『読売新聞』の社説数篇のみを採録した。
- ・『大阪毎日新聞』(1928年12月～1936年)の「硯滴」欄、『東京日日新聞』・『毎日新聞』(1936年～1953年12月)の「余録」欄のほとんどは丸山幹治の執筆になるものであるが、他の記者も一部執筆している。丸山幹治執筆文を特定することは現時点では困難である。単行書に収録された「余録」についてのみ、収録時のタイトルを付して採録した。掲載年月日は収録書に記載されているが誤記もある。初出と照合し誤記は訂正した。
- ・新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- ・新聞・雑誌における常設欄・特集・アンケートなどは[]に示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とし、[]内に「 」で示した。
- ・連載評論で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- ・雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- ・ニューヨーク滞在時(1914年8月3日～1915年11月22日)に、「空々子」のペンネームで『紐育新報』に執筆している。ペンネームは「空々子」で示した。
- ・編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- ・収録書は、以下の略号を用い、[]に注記した。
 - ①黒頭巾を脱ぐ』、②『溜飲を下ぐ』、③『事変下の日本』、④『硯滴・余録』、⑤『余録二十五年』
- ・その他、適宜、注記事項を[]に示した。

本著作目録の作成に際しては、NHK 放送博物館、大阪府立中之島図書館、岡山大学付属図書館、沖縄県立図書館、お茶の水図書館、京都府立総合資料館、高野山大学図書館、国立国会図書館、同志社大学図書館、日本近代文学館、日本新聞博物館、兵庫県立図書館、早稲田大学中央図書館所蔵の資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

I 丸山幹治(1880-1955)年譜

1880(明治 13)年

5月2日、長野県埴科松代町(現長野市)に生まれる。

1898(明治 31)年

9月、東京専門学校邦語科行政科入学。

1900(明治 33)年

三宅雪嶺が主宰する『日本人』に投稿、「静浦の一夜」(第124号、10月5日)、「人生問題に於ける意見」(第127号、11月20日)が掲載。

1901(明治 34)年

7月25日、東京専門学校邦語科行政科卒業。

卒業後、新聞『日本』入社。見習として校正を担当するが、二ヶ月目に社説の副題に誤植を残したまま通し、翌朝「爾今、出社に及ばず」という書留郵便を受け取る。

『日本』退社後まもなく、知人の紹介で『青森日報』主筆に就任。

1902(明治 35)年

『青森日報』が倒れ再び浪人となるが、青森市商業会議所書記長の肩書きで一年ほど青森にとどまる。

1904(明治 37)年

帰京。

日露戦争の勃発により、人出不足となった新聞『日本』に復社、乃木第三軍の従軍記者として、7月28日、宇品発。8月1日、青泥窪着。10月3日付『日本』に「従軍見聞記」ほか数篇が5頁にわたって掲載。10月10日付『日本』に「旅順戦記」が3頁にわたって一挙掲載。こうした旅順戦報道記事により、第三軍から追放され、日本に送還される。

1906(明治 39)年

8月、『日本』を退社し、早稲田大学講師田中穂積の紹介で『京城日報』(同年9月1日創刊)編集長に就任(8月16日東京発、20日京城着)。

1909(明治 42)年

1月、大阪朝日新聞社に入社、整理部の仕事のかたわら「天声人語」などを執筆。

1912(明治 45・大正元)年

5月、『丁稚制度の研究』を刊行。

1913(大正 2)年

1月1日、「民衆の傾向と政党」を『日本及日本人』に発表。山本内閣成立(2月20日)後、社用で上京、立憲同志会の後藤新平・河野広中に面談、帰京後、山本内閣の組閣経緯に関する記事「内閣組織の顛末」を『大阪朝日新聞』(3月13～24日)に掲載。

1914(大正 3)年

6月27日、横浜出帆、ニューヨーク特派員として渡米の途につく。

7月9日、ホノルル入港。17日、沿岸日本人状態視察のため、サンフランシスコ発、18日、サクラメント着、19日、フローリン地方を視察、プレスノを経て、20日、ロサンジェルス着、モネタ、ガーデナ地方の日本人農園生活状況を視察し、ロサンジェルス記者倶楽部主催の歓迎晩餐会に臨む。22日、ロサンジェルス発。23日、サンフランシスコ着。その後、シアトルに向かう。

8月3日、バンクーバーからニューヨーク着。ニューヨーク滞在時は、紐育新報社に事務室をおき「空々子」のペンネームで時評を執筆。

9月22日、早稲田大学校友会の歓迎会に出席。

1915(大正 4)年

11月22日、ニューヨーク発、ロンドンに向かう。30日、リバプール着。

1916(大正 5)年

在英中に中野正剛と会す。帰国後の3月23日、朝日講演会(於大阪土佐堀青年会館)で「戦時の欧州」と題して講演[「本社主催朝日講演会」『大阪朝日新聞』3月24日]。同年、成立した寺内内閣(10月9日～)を攻撃する「社説」および「短評」(夕刊紙の「評壇」)を執筆。

1917(大正 6)年

2月14日、地方官会議における後藤内相の訓示演説を批判した「後藤内相の訓示」を『大阪朝日新聞』社説に掲載。

1918(大正 7)年

8月、北海道の博覧会に出席、帰途、盛岡に下車し帰省中の原敬を訪問、大阪に帰って、9月8日、『大阪朝日新聞』社説に「原内閣を造れ」を掲載。10月15日、大阪朝日筆禍事件「白虹事件」(8月25日)により、編集局長鳥居素川、社会部長長谷川如是閑らとともに大阪朝日新聞社を退社。

1919(大正 8)年

11月、大阪朝日新聞社を退社した鳥居素川らを中心に創刊された『大正日日新聞』に参加。

1920(大正 9)年

6月頃、『大正日日新聞』が破綻し浪人生活。10月頃、『読売新聞』社長松山忠二郎(元東京朝日新聞編集局長)に招かれ入社(経済部長などを三年余り勤める)。12月19日、労働組合幹部や社会主義的思想家が議会否認的空想に囚われているのを戒め、『読売新聞』社説に「出版物並に一般言論界」を掲載。以後も折に触れて、思想的遊戯に耽る人々に現実立脚の必要を説いたという。

1924(大正 13)年

2月末、『読売新聞』の経営権が正力松太郎に移り、社長松山忠二郎らとともに退社。3月、「政教社後援会」の発起人になる。9月中旬、中外商業新報社に入社(論説委員)[『新聞及新聞記者』5-18、1924年10月1日掲載の個人消息による]。

1925(大正 14)年

『京城日報』主筆就任。9月8日、中外商業新報社主催満鮮シベリア視察団に同行して京城に赴いた清沢淵の訪問を受ける。

1928(昭和 3)年

9月15日、「副島蒼海先生」を『日本及日本人』に連載(～1929年10月15日、25回連載)。11月、大阪毎日新聞社に入社、論説委員として「視滴」欄を執筆(週一回休み)。

1935(昭和 10)年

1月20日、『黒頭巾を脱ぐ』刊。6月5日、『溜飲を下ぐ』刊。

1936(昭和 11)年

1月20日、『黒頭巾を脱ぐ』を『ジャーナリスト随筆選集 第一 丸山幹治篇』として刊。2月20日、『副島種臣伯』刊。この年、『東京日日新聞』に転勤、「余録」欄を執筆。6月20日、同志社専門学校校友会文芸部主催の講演会で「学生は何処に行く」と題して講演。

1937(昭和 12)年

6月1日、「三宅雪嶺論」を『日本評論』に発表。

1939(昭和 14)年

8月5日、『事変下の日本ーペンを剣にかへて』を刊行。

9月3日、対米放送で「其後に於ける新支那の治安工作」と題して時局講演(英語)予定。

1941(昭和 16)年

6月1日、「蘇峰と雪嶺」を『日本評論』に発表。

1942(昭和 17)年

1月15日、『硯滴・余録』刊。

1946(昭和 21)年

3月8日、「思想の師」として仰ぐ三宅雪嶺の追悼文「内的行動の人」を『真善美』に寄せる。

1949(昭和 24)年

この頃から、「余録」欄の執筆を週三回にとどめる。

1950(昭和 25)年

10月1日、新聞文化賞を受賞。

1953(昭和 28)年

8月25日、『余録二十五年』刊。12月16日、毎日新聞社が「余録」執筆25年を祝うカクテルパーティを開催(東京会館)。

1955(昭和 30)年

8月16日、逝去。20日、葬儀(於芝増上寺)。同月、丸山幹治追悼文が『毎日新聞』などに掲載(17日、永戸政治「天成の新聞人 丸山幹治氏を憶ふ」『毎日新聞』。23日、長谷川如是閑「丸山幹治君のこと」[芝増上寺における葬儀での弔辞]『毎日新聞』。28日、「偲ぶ草」『週刊朝日』)。

II 著作目録

1. 著書（共著・編著含む）

『丁稚制度の研究』[今村南史との共著]政教社、1912年5月25日[京都市社会課編『丁稚制度の研究 京都市に於ける女中に関する調査』<日本<子どもの歴史>叢書 21>（久山社、1998年4月）収録]

柯公は苦勞人だつた『柯公追悼文集』<柯公全集 別巻>柯公全集刊行会、1925年9月20日

『黒頭巾を脱ぐ』言海書房、1935年1月20日[『ジャーナリスト随筆選集 第一 丸山幹治篇』(言海書房、1936年1月20日)として刊行]

『溜飲を下ぐ』言海書房、1935年6月5日

名士の書『新聞人随筆集』米津健一編、新正堂書店、1935年9月20日

同志社出身の三先生『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』<同志社校友同窓会報第百号特輯>同志社事業部、1935年10月27日

『副島種臣伯』大日社、1936年2月20日[復刻版(みすず書房、1987年4月、2005年7月)]

国家と宗教との再認識[[記念講演、文責在記者]『全国仏教大会会報 第七回 記念講演集』全国仏教大会、1937年3月30日

『事変下の日本 - ペンを剣にかへて』人文書院、1939年8月5日

『硯滴・余録』道統社、1942年1月15日

大自然と闘ふ意義[「雪と経済」]『雪と文化』堀川豊永編、人文閣、1942年2月20日

新聞論説論-明治大正の大記者を中心として-『新聞講座・編集編』日本新聞協会、1948年8月1日

解題『頬杖つきて』<朝日文庫 15>鳥居素川著、朝日新聞社、1950年11月30日

一つのタイプ[「監修余滴」]『現代日本の人物事典』<『自由国民』34>自由国民社、1951年3月30日
[「知事と公務員」を監修]

誰よりも偉大『村上龍平伝』社史編修室編、朝日新聞社、1953年11月24日

『余録二十五年』毎日新聞社、1954年8月25日

2. 評論等（新聞・雑誌掲載）＜635 篇＞

1900(明治 33)年

静浦の一夜『日本人』124、10月5日

人生問題に於ける管見『日本人』127、11月20日

1901(明治 34)年

日本の政治家と言論『日本人』131、1月20日

忙人閑話『日本人』133、2月20日

大隈伯を評す『日本人』135、3月20日

現代文学の弊『日本人』136、4月5日

出処進退論『日本人』137、4月20日

高襟党と低襟党『日本人』141、8月20日

武装平和の弊を論じて戦争に及ぶ『日本人』147～149、9月20日、10月5、20日

覆醬録『日本人』148～150、10月5、20日、11月5日

功名心論『日本人』151、11月20日

晩秋雑筆『日本人』152、12月5日

政界人物の代謝『日本人』153、12月20日

1902(明治 35)年

獅児第一吼『日本人』154、155、1月5、20日

政界小観『日本人』157、2月20日

1904(明治 37)年

青泥窪瞥見『日本』8月21、26日

青泥窪 兵站病院を訪ふ『日本』8月24日

金州に遊ぶ『日本』8月24日

軍使往復の顛末『日本』9月1日

不思議の命『日本』9月16日

陣中奇譚『日本』9月20日

従軍記者の今日『日本』9月29日

嗚呼衛生隊『日本』10月1日

従軍見聞記(一)『日本』10月3日
従軍見聞記(二)『日本』10月3日
従軍見聞記(三)『日本』10月3日
従軍見聞記(四)『日本』10月3日
王家店に遊ぶ『日本』10月3日
山巔より見たる旅順背面の防備『日本』10月3日
従軍余録『日本』10月3日
占領砲台に上る『日本』10月3日
地雷発見の勇士『日本』10月3日
敵の使命を制す『日本』10月3日
軍楽隊一班『日本』10月4日
父の涙母の嘆き『日本』10月9日
旅順戦記『日本』10月10日
中央隊を訪ふ『日本』10月11日
陣中余聞『日本』10月11日
陣中瑣談『日本』10月11日
従軍雑記『日本』10月13日
陣中の昼餐会『日本』10月20日
旅順戦記 右翼隊戦記 10月27日
旅順戦記(二) 総攻撃叙記『日本』11月5日
名誉なる工兵隊『日本』11月6日
旅順戦記(三) 第三回総砲撃『日本』11月14日
旅順雑感 誣妄も甚し『日本』11月14日
旅順水源の発見『日本』11月16日
鉢巻山占領戦記『日本』11月19日
第三回旅順攻撃実見記『日本』11月21日
一戸保塁を観る『日本』11月22日
二龍山塹壕に上る『日本』11月22日
旅順要塞戦の真相『日本』11月23日
敵と壁一重 北砲台穹窿を見る『日本』11月24日
P砲台の占領 一戸少将の勇戦『日本』11月25日
中村隊!!!折下隊!!!『日本』11月26日

総攻撃の前夜『日本』11月28日

1906(明治39)年

帰省小記『日本人』434、435、5月5、20日

所謂個人主義『日本人』435、5月20日

1908(明治41)年

韓国に於ける日本人『日本及日本人』476、477、480、1月15日、2月1日、3月15日

1909(明治42)年

在韓二年半『朝鮮』2-6、2月11日

1910(明治43)年

夏の岐蘇路『大阪朝日新聞』8月11～23、25～27日

1912(明治45・大正元年)

横の戦争と縦の戦争『日本及日本人』587、8月1日

1913(大正2)年

民衆の傾向と政党『日本及日本人』597、1月1日[太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)、今井清一編『大正思想集 I』(筑摩書房、1978年)収録]

内閣組織の顛末[無署名]『大阪朝日新聞』3月13～24日

ハバロフスク(二、三)『大阪朝日新聞』12月4、6日[(一)は未確認]

1914(大正3)年

原田君の「紐育」『日本及日本人』633、7月1日

米国の日本人に就て『紐育新報』8月29日

布哇の半日『日本及日本人』640、10月1日

名士季節『紐育新報』167、10月3日《空々子》

独帝の活躍 旧劇的主人公の運命『紐育新報』1169、10月17日

強味と柔か味 紐育日本人の米国観『紐育新報』171、10月31日《空々子》

1915(大正 4)年

日本協会の夜会『紐育新報』189、3月6日《空々子》
人種的門戸開放『紐育新報』190、3月13日《空々子》
政府党大勝『紐育新報』193、4月3日《空々子》
紐育の日本人『紐育新報』195、4月17日《空々子》
所謂くろうと外交『紐育新報』197、5月1日《空々子》
日支交渉終了『紐育新報』199、5月15日《空々子》
伊太利起つ『紐育新報』201、5月29日《空々子》
武氏の辞職『紐育新報』203、6月12日《空々子》
日本の政界を眺めて『紐育新報』205、6月26日《空々子》
大隈内閣の運命『紐育新報』207、7月10日《空々子》
参政官一口表『紐育新報』208、7月17日《空々子》
外国通とは何ぞ『紐育新報』209、7月24日《空々子》
現行犯と前科者 日本政界の混乱『紐育新報』211、8月7日《空々子》
大隈内閣改造『紐育新報』213、8月21日《空々子》
青年の政治的衝動『紐育新報』215、9月4日《空々子》
日本人の合言葉『紐育新報』217、9月18日《空々子》
ウ氏の外交収穫期『紐育新報』221、10月16日《空々子》
婦人参政権問題『紐育新報』221、10月16日《空々子》
日米問題の両面『紐育新報』223、10月30日《空々子》
新忠君愛国主義『紐育新報』224、11月6日《空々子》
ウ氏は何故人気があるか『東京朝日新聞』11月8、9日
米国の対独外交『東京朝日新聞』11月10～15日
米国の国防問題『大阪朝日新聞』11月27、29日(『東京朝日新聞』12月5、6日)
御暇乞『紐育新報』11月27日

1916(大正 5)年

大西洋上より『東京朝日新聞』1月24、25、31日[『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]
戦時の英国『大阪朝日新聞』2月14～16日(『東京朝日新聞』2月21、22日、3月6日)[『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]
戦時の英国『大阪朝日新聞』2月14～16日(『東京朝日新聞』2月21、22日、3月6日)[『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]

暗らい倫敦明るい伯林『大阪朝日新聞』3月8～10日(『東京朝日新聞』3月9、10、12日)[①、『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]

一瞥した戦時の欧州『大阪朝日新聞』3月17～22、25～29日、4月1～3、5～7、9～11日

空々子丸山幹治氏よりの書簡[雑報]『紐育新報』247、4月15日

西から東へ『大阪朝日新聞』4月17～24日

新聞と文章[「現代名家文章大観」]『日本及日本人』689、9月20日[『現代名家文章大観』<資料集成近代日本語 形成と翻訳 第18巻>(大空社、2016年)収録]

1917(大正 6)年

後藤内相の訓示[無署名社説]『大阪朝日新聞』2月14日

不信任案と思想問題『日本及日本人』701、6月15日

1918(大正 7)年

春の傍観者『日本及日本人』728、4月5日

軍閥のプロパガンダ『日本及日本人』732、6月1日

原内閣を造れ[無署名社説]『大阪朝日新聞』9月8日

1920(大正 9)年

精神的優越と美人『日本及日本人』780、4月5日

日本の新聞紙に就て『紐育新報』634、7月3日

出版物並に一般言論界[無署名社説]『読売新聞』12月19日

1921(大正 10)年

平凡人の特権『日本及日本人』759、1月1日

否……寧ろ待遇改善が第一[「日本に『新聞士』制度を設立するの可否」]『新聞及新聞記者』2-3、3月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第2巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

私の見た如是閑君[「長谷川如是閑合評」]『野依雑誌』1-1、6月1日

新聞の論説化、論説の社会化『新聞及新聞記者』2-10、11月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第3巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

1922(大正 11)年

寧ろ材料の単純化[「開拓すべき記事材料源」]『新聞及新聞記者』3-2、2月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第3巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

希望の持ち様なし[「春秋会に対する所感と希望」]『新聞及新聞記者』3-6、8月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第3巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

記者』第5巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

過激法案が現行法改正に乗ずる疑[「現行新聞紙法中の不備点と改正要目」]『新聞及新聞記者』3-8、10月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第5巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

予定図には金が掛からない[「帝都復興に対する民間からの要求」]『女性』4-5、11月1日

1923(大正12)年

異彩を放つ眼[「羯南居士十七周忌に会して」]『日本及日本人』869、9月1日[「陸羯南全集 第十巻」(みすず書房、1985年)収録]

予定日には金がかからない『女性』4-5、11月1日

1924(大正13)年

陽気で簡單明瞭で嫌味のない新聞[「報知新聞の編輯及経営振りに対する批判と感想」]『新聞及新聞記者』5-2、1月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第8巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

現実政治の目ざめ『日本及日本人』41、2月1日

朝刊よりも夕刊に本来の特色濃厚[「東京朝日の編輯及経営振りに対する批判感想」]『新聞及新聞記者』5-4、2月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第8巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

彼は『読売新聞』をやめた『日本及日本人』44、3月15日

新聞記者の職業意識『日本及日本人』45、4月1日

日米問題に関する福田博士の誤解『日本及日本人』48、5月15日

雑誌文壇と新聞文壇『財界レビュー』2-6、6月1日

主として憲政会に言ふ『日本及日本人』52、7月15日

行政整理と試験制度—法律万能主義を打破せよ—『日本及日本人』54、8月15日

新聞及び新聞記者の社会的考察『日本及日本人』55、9月1日

1925(大正14)年

世界の水郷[「夏と水郷の印象」]『朝鮮公論』13-8、8月1日

[「朝鮮に於て衣食住に関し特に改善を要する事項」]『朝鮮社会事業』3-10・11、10月15日

1926(大正15・昭和元)年

[「最も将来ありとせらるる全国新聞社員」]『新聞及新聞記者』7-1、1月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第13巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

健康第一主義を[「新総監を迎へて 全鮮言論界の要求」]『朝鮮公論』14-1、1月1日

経費を節減して人減らし御免[「連合通信社の設立に対する賛否と希望点—一切後着の分」]『新聞及新聞記者』7-6、3月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第14巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

ひと昔前の想ひ出[「外遊中に於ける初秋の想ひ出」]『朝鮮公論』14-10、10月1日

余の見聞体験せる政治的貢献[「新聞が大正年間に我国文化に貢献した顕著な実例」]『新聞及新聞記者』7-18、10月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第16巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

日本の新聞読者は社説をどう読むか[「新聞と社説」]『朝鮮及満洲』229、12月6日

1927(昭和2)年

新聞漫語『朝鮮公論』15-1、1月1日

二十年前の回顧[「朝鮮の回顧」]『朝鮮及満洲』233、4月1日

僕の観た積尾君[「二十周年記念祝辞に代へて 積尾東邦観」]『朝鮮及満洲』233、4月1日

内地に於ける朝鮮人の保護事業(相愛会と内鮮協和会)『朝鮮社会事業』5-6、6月1日

協調外交か自主外交か『朝鮮公論』15-7、7月1日

[「在鮮名士の勉強法と運動法」]『朝鮮公論』15-8、8月1日

1928(昭和3)年

京城から東京まで一字垣大将と語る一『朝鮮及満洲』242、1月1日

噫鳥居素川翁『日本及日本人』147、4月1日

既成政党の戦術革新—普選第一の印象—『朝鮮公論』16-4、4月1日

人口問題と朝鮮『日本及日本人』152、6月1日

蒼海先生と楠公社『日本及日本人』155、7月15日

副島蒼海先生『日本及日本人』159、161~166、168~174、176~178、180~187、9月15日、10月1、15日、11月1、15日、12月1、15日、**1929年**1月15日、2月1、11日、3月1、15日、4月1、15日、5月15日、6月1、15日、7月1、15日、8月1、15日、9月1、15日、10月1、15日<25回連載>

東京だより『朝鮮及満洲』251、10月5日

恩給制改正と官吏の地位『朝鮮及満洲』252、11月5日

1929(昭和4)年

治安法と副島種臣伯『大阪毎日新聞』3月13日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度 1』(新聞資料出版、1989年)収録]

米穀法と食糧問題[「論説」]『エコノミスト』7-13、7月1日

1930(昭和5)年

朝鮮の文化研究『朝鮮地方行政』9-4、4月1日

外務卿としての副島蒼海伯『外交時報』610、611、613、614、616、5月1、15日、6月15日、7月1日、8月1日

枢密院物語『東京日日新聞』9月8～10、12日[第1回のみ「闇の力 枢密院」】【1例の横車は何処まで押せる、2憲法の老番人、3猿の尻笑ひ、4流石は山本伯】[『新聞集成昭和編年史 第五巻 昭和五年度』(新聞集成大正昭和編年史刊行会、1958年)収録]

1931(昭和6)年

政治の新傾向『文化時報』1月28～31日、2月1日
英政局漫談 赤字内閣の悩み 同病憐れむわが当局『サンデー毎日』10-40、9月6日
平均点の多い政治家浜口雄幸『大日』15、9月15日
鮮かな辞職振り江木前鉄相『サンデー毎日』10-43、9月20日
連盟恐るゝに足らず日本の力強き立場 日支問題に認識不足の理事会『サンデー毎日』10-52、11月15日

1932(昭和7)年

時局を漫談する『朝鮮公論』20-6、6月1日
口の外交家を養成せよ[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』172、12月5日
現時の日本の新聞[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』172、12月5日
斎藤内閣の本質を検討す[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』173、12月21日

1933(昭和8)年

政党は如何にして其信用を回復するか『京都帝国大学新聞』174、1月11日
議員の素質と金力[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』175、1月21日
官学整理論に就て[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』176、2月5日[「官学整理論」と改題、①収録]
興奮外交を戒める[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』177、2月21日
斎藤内閣の傑作 新宮相・湯浅倉平氏 いつも素面、素顔の人『サンデー毎日』12-10、2月26日[「宮相湯浅倉平氏」と改題、①収録]
三つの外交文書を読む[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』178、3月3日
新聞街より『政界往来』4-4、4月1日
日本の運命『大日』52、4月1日
無力に終つた第六十四議會[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』179、4月5日
小山法相留任問題と今後の政局[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』180、4月21日
非常時日本に人物なし[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』181、5月5日
三大疑獄から五・一五事件へ[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』182、5月21日
社会科学に就ての常識の危険性—鳩山文相の態度分析—[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』184、6月21日
京大問題を機として自由主義は甦へる[「内外時事」]『京都帝国大学新聞』185、7月5日

新聞街より『政界往来』4-11、11月1日

海軍の大御所山本権兵衛伯『サンデー毎日』12-57、12月17日

1934(昭和9)年

松『日本及日本人』288、1月1日

政党は態度を明にせよ[「今議会に政党は何を為す可きか」]『実業之世界』31-2、2月1日

日本政党罪惡史[書評]『大阪毎日新聞』3月6日[『新聞集成昭和編年史 第9巻(昭和9年度版)』(大正昭和新聞研究会、1970年)収録]

日本的必然[「嗚呼東郷元帥」]『日本及日本人』299、6月15日

枢府に注射した一木男 新顧問官と、平沼系の崩落『サンデー毎日』13-29、6月24日

要するに腹の問題[「華府条約を即時廃棄通告せよ」]『日本及日本人』306、10月1日

台風議会—政界の気象観測『サンデー毎日』13-47、10月14日

児玉拓相『サンデー毎日』13-5、11月4日

非常時とインテリ心理『大日』92、12月1日

1935(昭和10)年

池辺に遊ぶ鶴『日本及日本人』312、1月1日

後藤内相“浮草”手入れ『サンデー毎日』14-6、1月27日

千葉龜雄君の思出『大日』113、10月15日

1936(昭和11)年

解散か非解散か、何れが勝つても単一政党内閣の成立は困難[「今年はどうなる？政界篇」]『サンデー毎日』15-2、1月5日

農村を救ふ科学[「社会時評」]『富民協会報』8-1、1月5日

鶴沢博士の『老子の研究』を読む[「読書」]『大阪毎日新聞』1月21日

重臣ブロックと首相候補—本年の政局展望—『自由通商』9-2、2月1日

農村と宗教[「社会時評」]『富民』8-2、2月5日

農村と増税問題[「社会時評」]『富民』8-3、3月5日

顧みて他を云はず『文芸春秋』15-4、4月1日

農村の青年と時局の認識[「社会時評」]『富民』8-4、4月5日

議会政治の改善へ[「革新第一着手の処」]『京都帝国大学新聞』243、4月20日

農村更生と指導者[「社会時評」]『富民』8-5、5月5日

村の成功者[「社会時評」]『富民』8-6、6月5日

学費は帰らぬ[「社会時評」]『富民』8-7、7月5日
農村に有閑婦人なし[「社会時評」]『富民』8-8、8月5日
電力国営案と農村[「社会時評」]『富民』8-9、9月5日
スペイン動乱と日本 世界平和の鍵は日英両国に『京都帝国大学新聞』250、9月20日
戸数割の全廃／小作争議の激増／農村生活の価値[「社会時評」]『富民』8-10、10月5日
豊作を喜ぶ心／米食の価値／税制改革と農村[「社会時評」]『富民』8-11、11月5日
詐欺漢が発明家／資源不足と科学的研究／米国景気／迷信の退治[「社会時評」]『富民』8-12、12月5日
本年の政界[「内外を顧る」]『京都帝国大学新聞』256、12月20日

1937(昭和12)年

農民生活の安定／繊維国策の前途[「社会時評」]『富民』9-1、1月5日
農民の常識と義務教育／公定米価の妥当性[「社会時評」]『富民』9-2、2月5日
政局とイデオロギー[「政治及社会時評」]『エコノミスト』15-5、2月11日
林内閣と農村問題[「社会時評」]『富民』9-3、3月5日
地方交付金の意義[「現下の財政を批判す」]『セルパン』75、4月1日
顧みて他を云はず[「顧みて他を云ふ」]『文芸春秋』15-4、4月1日
寒村の財政と交付金／軍事救護法改正[「社会時評」]『富民』9-4、4月5日
新党と再解散[「政治及社会時評」]『エコノミスト』15-12、4月21日
日本政治の特殊性を検討する座談会『文芸春秋』15-5、5月1日[4月7日座談会(於紅葉館)：佐々弘雄、御手洗辰雄、大森義太郎、横田喜三郎、向坂逸郎、石浜知行、三木清][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]
お蠶さんの誇り／物価高と農村／第二次農村更生策[「社会時評」]『富民』9-5、5月5日
朝鮮のジャーナリスト 同一陣営に三十年とはそれだけで頭が下る[「筆陣三十年の祝辞に代へて 東邦山人 釈尾春荇氏を語る」]『朝鮮及満洲』354、5月8日
国民の時局認識は正しい『京都帝国大学新聞』262、5月20日
三宅雪嶺論『日本評論』12-6、6月1日[本山幸彦編『近代日本思想体系5 三宅雪嶺集』(筑摩書房、1975年)収録]
農民党出づるか／物価騰貴と農村[「社会時評」]『富民』9-6、6月5日
現政局を斬る 林内閣ついに総辞職『サンデー毎日』16-30、6月13日
企画庁を中心に[「新内閣を展望す」]『京都帝国大学新聞』264、6月20日
馬場氏の人気不人気／土地法案の再吟味／義務教育延長案の運命／満州国の農業統制[「社会時評」]『富民』9-7、7月5日
農相の六大政策／市町村役場と各種団体の監督／物価騰貴と農村の影響[「社会時評」]『富民』9-8、8月5日

農民生活の安定／治山治水の閉却／農民と万国博／出征軍人の扶助[「社会時評」]『富民』9-9、9月5日
事変と農村生活の影響[「戦時体制下の農村」]『富民』9-10、10月5日
英国の支那侵略史『文芸春秋』15-13[第三臨時増刊]、10月15日
華府会議から九国会議まで[「政治及社会時評」]『エコノミスト』15-31、11月1日
輸入統制と消費節約[「社会時評」]『富民』9-11、11月5日
何も出来ない九国会議『文芸春秋』15-15[事変・第四増刊]、11月15日
日独伊防共協定は国際関係にどう響く『サンデー毎日』16-61、11月28日
従軍記者論『改造』19-14、12月1日[③収録。「従軍記者の思い出」と改題、⑤収録]
英国の極東政策を暴く『世界知識』10-12、12月1日
事変後に来るもの[「社会時評」]『富民』9-12、12月5日
英独会談と大本営[「政治及社会時評」]『エコノミスト』15-35、12月11日
本年の政界[「内外を顧る」]『京都帝国大学新聞』256、12月20日

1938(昭和13)年

軍国の新年所感／銃後の施設[「社会時評」]『富民』10-1、1月5日
戦時議会に聴く『大阪毎日新聞』1月28日(戦時議会傍聴記『東京日日新聞』1月28日)[『東京日日新聞』から『新聞集成昭和編年史 昭和13年度版 I』(明治大正昭和新聞研究会、1991年)収録]
南京政府没落に英・蘇はどうでるか『世界知識』11-2、2月1日
厚生省と農村／青年学校義務制[「社会時評」]『富民』10-2、2月5日
戦時体制下の農村問題『農業と経済』5-2、2月1日
国家総動員法批判[「論説」]『エコノミスト』16-6、2月21日
官僚論『改造』20-3、3月1日
兵士の給与と公民権／農地調整法問題[「社会時評」]『富民』10-3、3月5日
近衛内閣の弱点[「文化評論」]『帝国大学新聞』711、3月14日
国内相剋なし『改造』20-4、4月1日
総動員法案の解釈『セルパン』87、4月1日
『近衛篤磨公』を読む『大日』172、4月1日
政教社回顧座談会『日本及日本人』359、4月1日[3月14日座談会於赤坂区山下溜池「幸楽」：棚橋一郎、古島一雄、国分高胤、岡崎壮太郎、阪井弁、永原鉦作、三井甲之助、長谷川万次郎、三苫亥吉、井上雅二、横矢重道、三田村玄龍、寒川陽光、大野兵三郎、入江種矩、雑賀博愛、柴田泰助]
「総動員法と国民生活」座談会『文芸春秋』16-6、4月1日[5月7日座談会：浅沼稻次郎、清瀬一郎、牧野良三、奥村喜和男、津村秀松]
村の警察[「社会時評」]『富民』10-4、4月5日
戦時議会の総決算『サンデー毎日』17-18、4月10日

- 西園寺公と近衛篤磨公『政界往来』9-5、5月1日
- 事変下の農村思想問題『帝国農会報』28-5、5月1日
- 官吏の素質向上『文芸春秋』16-7、5月1日
- 青年学校の義務制準備[「社会時評」]『富民』10-5、5月5日
- 頑張るぞ！近衛首相『サンデー毎日』17-23、5月8日
- 新聞記者のデスクから[「職場から見た事変の波紋」]『文芸春秋』16-8[時局月報8 現地報告]、5月10日
- 文官制度改革案を評す[「文化評論」]『帝国大学新聞』720、5月16日
- 対支中央機関問題[「時評」]『エコノミスト』16-16、6月1日
- 近衛内閣の革新性『改造』20-6、6月1日
- 断種法と血統観念[「社会時評」]『富民』10-6、6月5日
- 世界大戦の英・独戦時体制 - 交戦国における国家総動員の内幕『世界知識』11-8、7月1日
- 強化された近衛内閣『セルパン』90、7月1日
- 対支中央機関問題『東方公論』13-7、7月1日
- 『わしの若い頃』を語る 有名人『話』の会『話』6-7、7月1日[座談会於なには家：松波仁一郎、笹川臨風、徳川秋声、兼常清佐、悟道軒円玉]
- 断乎！『強力日本』は往く『サンデー毎日』17-32、7月3日
- 農村の労働力／農村学生と暑中休暇[「社会時評」]『富民』10-7、7月5日
- ソ連の戦意を打診する[「時局評論」]『世界週刊』1-9、7月9日
- 思想統制と河合問題[「文化評論」]『帝国大学新聞』736、7月17日
- 水禍を論ず[「時評」]『エコノミスト』16-21、7月21日
- 物の節約[「社会時評」]『富民』10-8、8月5日
- 宇垣クレーギイ会談[「イギリスの批判」]『セルパン』92、9月1日
- 地方制度の改革問題『農業と経済』5-9、9月1日
- 農民劇を観る／農業報国運動[「社会時評」]『富民』10-9、9月5日
- 東亜農林協議会／小説『大地』を読み[「社会時評」]『富民』10-10、10月5日
- 近衛内閣再批判『改造』20-11、11月1日
- ヒットラアとチエンパレン『セルパン』94、11月1日
- 農村と犠牲産業／農業生産の計画経済[「社会時評」]『富民』10-11、11月5日
- 新党運動か国民運動か[「時評」]『エコノミスト』16-32、11月11日
- 新支那建設と今後の外交[「長期戦の新段階」]『セルパン』95、12月1日
- 農村自治制改正問題『帝国農会報』28-12、12月1日
- 東亜の新情勢と国際政局の動向[「時局評論」]『世界週刊』1-30、12月3日
- 農村の購買力減退／農業生産の計画化[「社会時評」]『富民』10-12、12月5日

1939(昭和14)年

- 新語の汎濫／国民再組織と農村再組織[「社会時評」]『富民』11-1、1月5日
- 答弁の圧巻は農相[「議会往来」]『大阪毎日新聞』1月23日
- 時局に即応した農政を桜内新農相に期待す[「社会時評」]『富民』11-2、2月5日
- 興亜議会に聴く[「時評」]『エコノミスト』17-5、2月11日
- 社大、東方の合同『帝国大学新聞』753、2月13日
- 平賀肅学『サンデー毎日』18-9、2月19日
- *新内閣の本質と政局への動向『グラフィック』2月
- 興亜の議会と政局『サンデー毎日』18-11、3月5日
- 移民と拓土／出産減退防止[「社会時評」]『富民』11-3、3月5日
- 大先輩記者座談会『サンデー毎日』18-12、3月10日[座談会：大谷誠夫、神近市子、倉辻白蛇、長谷川如是閑、福良竹亭、上司小剣、阿部真之助]
- 農業生産の増進／生糸相場抑制は短見[「社会時評」]『富民』11-4、4月5日
- 議会後の政局[「時評」]『エコノミスト』17-11、4月11日
- 東西の新秩序『公民講座』174、5月1日
- 欧州情勢と政局 世界戦争勃発の可能性と日本の外交進路『京都帝国大学新聞』295、5月5日
- 英国の農業問題／米麦増産と肥料分配[「社会時評」]『富民』11-5、5月5日
- 政党の肅清[「文化評論」]『帝国大学新聞』765、5月8日
- 農村の緊張は何によるか／農村生徒の動員[「社会時評」]『富民』11-6、6月5日
- 独善主義を戒む『改造』21-7、7月1日
- 冠婚葬祭の自肅／傷痍軍人五訓[「社会時評」]『富民』11-7、7月5日
- 世界新秩序建設のために[「軍事同盟が出来たら」]『文芸春秋』17-14[時局増刊22 現地報告]、7月10日
- 「江戸百話」を読む『大日』203、7月15日
- クレーギーとカー『セルパン』103、8月1日
- ソ連の思惑と蒋介石『セルパン』103、8月1日
- 日本刀説[「緑蔭随想」]『財政経済時報』26-8、8月1日
- [「イギリスの審判」]『大陸』2-8、8月1日
- 英国の援蒋暴状を殲滅せよ『日本及日本人』375、8月1日
- 公私生活の刷新／自肅を専一にせよ[「社会時評」]『富民』11-8、8月5日
- 東京会談を語る[「時評」]『エコノミスト』17-23、8月11日
- 時局認識難[「新秋随筆」]『財政経済時報』26-9、9月1日
- 『羯南文録』を語る『大日』206、9月1日[「『陸羯南全集 第十巻』(みすず書房、1985年)収録]
- 税制の改革／不良療術取締[「社会時評」]『富民』11-9、9月5日

- 自覚せよ、国際情勢に響く日本の重大な一呼一吸を！『サンデー毎日』18-45、9月10日
- 阿部内閣に望む[「文化評論」]『帝国大学新聞』778、9月18日
- 明朗闊達な政治を要求す『改造』21-10、10月1日
- [「日本外交よ！世界大戦にかく対処せよ」]『大陸』2-10、10月1日
- ドイツ対イギリス・フランス・ポーランドいずれが勝つか？ 世界大戦の作戦と持久力『大陸』2-10、10月1日[9月初旬座談会於芝青袋寮：福山寛邦、松井明、聴涛克己、木下半治]
- 行政機構改革と専任農相問題[「農政時評」]『帝国農会報』29-10、10月1日
- 米国はなぜ日米通商条約を廃棄したか[「時局早わかり」]『富士』12-12、10月1日
- 第二次欧州大戦[「社会時評」]『富民』11-10、10月5日
- ソヴェトは何を最も恐れてゐるか[「英仏独ソ伊米は何を最も恐れてゐるか」]『実業之日本』42-20、10月15日
- 貿易省問題の悲喜劇[「時評」]『エコノミスト』17-30、10月21日
- 阿部内閣の内憂外患『サンデー毎日』18-53、10月22日
- *不侵略条約と日本の立場『今日の問題』10月
- 欧州大戦を如何に見るか『公民講座』180、11月1日
- つひに勃発した第二次欧州大戦[「時局早わかり」]『富士』12-14、11月1日
- 欧州運命の秘翰「白書」『文芸春秋』17-21、11月1日
- 官僚と政党—政党政治再建への途『早稲田大学新聞』153、11月1日
- 専任農相問題[「社会時評」]『富民』11-11、11月5日
- 欧州謀略外交戦を衝く『実業之日本』42-22、11月15日
- 日米日英会談の前途『サンデー毎日』18-59、11月26日
- 官吏制度の改革[「文化評論」]『帝国大学新聞』788、11月27日
- *欧州動乱を如何に利用すべきか『今日の問題』11月
- 座談会 新情勢下の日本を語る『青年』24-12、12月1日[座談会：丸山幹治、白崎亨一、熊谷会次郎、鈴木東民、山崎靖純]
- 交戦国を動かす人々『セルパン』107、12月1日
- 「複雑怪奇」の正体[「時局早わかり」]『富士』12-15、12月1日
- 米穀と米国と[「社会時評」]『富民』11-12、12月5日
- 新聞人より政党へ[「リレー評論・昭和十五年に望む!!」]『文芸春秋』17-25[時局増刊 28 現地報告]、12月15日
- 政府、五党首会合の意義『サンデー毎日』18-62、12月17日

1940(昭和15)年

- [「皇紀二千六百年を迎ふる覚悟と希望」]『公民講座』182、1月1日

- 日米関係の見透しを語る『時局情報』4-1、1月1日[12月9日座談会於東京丸の内会館：阿部真之助、水戸政治、藤岡啓、平尾弥五郎、緒方昇、柳重徳]
- 「戦時第四年の農政を諸家に聴く」『島根県農会報』504、1月1日
- 歴史は日本の手で作られる[「時局早わかり」]『富士』13-1、1月1日
- 初春村の話題[「社会時評」]『富民』12-1、1月5日
- 何が阿部内閣を倒したか『エコノミスト』18-3、1月21日
- 新文相に望む[「文化評論」]『帝国大学新聞』796、1月29日
- 英米思想とドイツ思想『今月の臨床』342、2月1日
- 欧州戦争と日本『時局情報』4-2、2月1日
- 欧州戦線縦横談義『実業之日本』43-3、2月1日[斉藤忠との対談]
- 政党は復活するか『話』8-2、2月1日[12月11日座談会於芝紅葉館：清瀬一郎、亀井貫一郎、内ヶ崎作三郎、油谷義治、木村正義、植原悦二郎、秋定鶴造]
- 世界は動いてゐる[「時局早わかり」]『富士』13-2、2月1日
- 議会を批判する『サンデー毎日』19-9、2月5日
- 物の政治問題[「社会時評」]『富民』12-2、2月5日
- 近頃読んだ二書『大日』217、2月15日
- 議会展望対談会『時局情報』4-3、3月1日[阿部真之助との対談]
- 重臣政治と議会の論議『改造』22-5、3月3日
- 七十五議会批判『京都帝国大学新聞』310、3月5日
- 米の政治問題[「社会時評」]『富民』12-3、3月5日
- 議会論戦批判[「時評」]『エコノミスト』18-8、3月11日
- 第七五議会と政党『帝国大学新聞』806、3月30日
- 重臣政治の政治史的考察『今月の臨床』344、4月1日
- アメリカの肚・ソ連の肚『実業之日本』43-7、4月1日
- 農民がもたねばならぬもの[「社会時評」]『富民』12-4、4月5日
- 事変処理と国民生活を語る座談会『現代』21-5、5月1日[座談会：渡辺鍊藏、熊谷憲一、山道襄一、大口喜六、藤沼庄平]
- 北欧海戦と今後の大戦乱『公民講座』186、5月1日
- 官僚政治—旧刊批評[「隨筆」]『財政経済時報』27-5、5月1日
- 欧州の戦局[「時局解説」]『銃後之友』2-5、5月1日
- 外交攻勢か軍事攻勢か—独伊会談に次ぐもの—『雄弁』31-5、5月1日
- 農村滞留資金の吸収[「社会時評」]『富民』12-5、5月5日
- 排英と侮英『外交』444、445、5月20、27日

床屋軍談[「社会随想」]『エコノミスト』18-19、6月3日
中央の声と地方の声[「社会時評」]『富民』12-6、6月5日
新党と近衛公[「文化評論」]『帝国大学新聞』816、6月17日
[「現下日本のジャーナリズム」]『大陸』3-7、7月1日
藪が高い／相続税の物納制度[「社会時評」]『富民』12-7、7月5日
官僚への電訓[「銃眼」]『現地報告』34、7月10日
外交は今後どう変わるか[「新党が出来たら」]『実業之日本』43-14、7月15日
奢侈令と婦人の服飾『財政経済時報』27-8、8月1日
ドイツの対英攻勢『セルパン』108、8月1日
奢侈生活の一掃／近衛公と新党[「社会時評」]『富民』12-8、8月5日
新体制下の官僚『現地報告』35、8月10日
[「葉書回答 時局下文芸放送への一提案」]『放送』10-8、8月15日
新体制と新外交『公民講座』190、9月1日
新体制の性格と理念『サンデー毎日』19-42、9月1日
世界情報『新若人』1-1、9月1日
人物と体制／基本国策／農村の新体制[「社会時評」]『富民』12-9、9月5日
隣組談義『サンデー毎日』19-46、9月22日
世界情報『新若人』1-2、10月1日
外米の輸入問題[「社会時評」]『富民』12-10、10月5日
国防と人口『サンデー毎日』19-48、10月6日
指導国と指導者『サンデー毎日』19-49、10月13日
英援助に一步前進した米国『実業之日本』43-20、10月15日
名誉の理念『サンデー毎日』19-50、10月20日
転失業の問題『サンデー毎日』19-51、10月27日
[「社会変革期に於ける学生生徒への希望」]『新若人』1-3、11月1日
新世界秩序への新段階 日独伊三国同盟の意義『朝鮮画報』2-11、11月1日
教育勅語煥發五十年『サンデー毎日』19-52、11月3日
日独伊同盟の意義／農家の転業[「社会時評」]『富民』12-11、11月5日
遊民を一掃せよ[「社会随想」]『現地報告』38、11月10日
紀元二千六百年『サンデー毎日』19-53、11月10日
大政翼賛会に望む[「文化評論」]『帝国大学新聞』831、11月11日
大政翼賛運動の本質『公民講座』193、12月1日

- *世界新秩序の発足／三国同盟と世界の動き[「時局早わかり問答」]『富士』13-13、12月1日
宣伝部への注文[「国民の建言」]『改造』22-23、12月2日
米国今後の動き／生糸の前途[「社会時評」]『富民』12-12、12月5日
近衛内閣の強化『新興婦人』7-1、12月20日

1941(昭和16)年

- [「学徒は如何なるものを読む可きか」]『新若人』1-5、1月1日
日本精神の本質『通信の知識』5-1、1月1日
最初も最後もない御奉公『日本及日本人』392、1月1日
近衛内閣の歴史的意義は益々深まる[「紀元二千六百一年の内外諸情勢」]『サンデー毎日』20-2、1月5日
荆棘の道／家族制度の尊重[「時の話題」]『富民』13-1、1月5日
新体制の議会『時局情報』5-1、1月10日
日本精神の本質『月刊文化沖繩』2-1、1月15日
農業再編成／養蚕の受難期[「時の話題」]『富民』13-2、2月5日
近衛首相の責任観念[「文化評論」]『帝国大学新聞』843、2月10日
翼賛議会と選挙法改正の問題[「時局早わかり」]『富士』14-3、3月1日
人口政策と農村／出生率と死亡[「時の話題」]『富民』13-3、3月5日
翼賛と私生活『新興婦人』7-4、3月20日
松岡外相の渡欧と世界危機『公民講座』197、4月1日
武器貸与法の内幕－米国は参戦するか－『実業之日本』44-7、4月1日
食糧問題から見た欧州の戦局[「時局早わかり」]『富士』14-4、4月1日
食糧増産政策／農村の娯楽[「時の話題」]『富民』13-4、4月5日
翼賛会の改組『サンデー毎日』20-17、4月13日
提督商相乗出す『サンデー毎日』20-18、4月20日
翼賛会と壮年団[「文化評論」]『帝国大学新聞』853、4月21日
近衛内閣と政治力の強化『大陸』4-5、5月1日
アメリカは果して参戦するか[「時局早わかり問答」]『富士』14-5、5月1日
国民礼法要項に就いて『新興婦人』7-6、5月20日
蘇峰と雪嶺『日本評論』16-6、6月1日
日ソ新條約の意義[「時局早わかり問答」]『富士』14-6、6月1日
官界新体制の原理[「論説及時評」]『エコノミスト』19-21、6月2日
旧暦と農家／農村へ手助け[「時の話題」]『富民』13-6、6月5日

- 堀大司訳ゴードン将軍の最期[「読書」]『東京日日新聞』6月15日
- 憲法と議会政治 鈴木安蔵氏著『日本政治の規準』『帝国大学新聞』863、6月30日
- 第二次大戦の発展と日本の立場『公民講座』200、7月1日
- 住宅問題の展望『中央公論』56-7、7月1日
- 大東亜共栄圏と世界戦争[「時局早わかり問答」]『富士』14-7、7月1日
- 篤農家は何を語ったか／米の統制と府県ブロック[「時の話題」]『富民』13-7、7月5日
- 独ソ戦争と日本の方向『公民講座』201、8月1日
- 政変の政治史的考察『改造』23-16、8月2日
- 翼賛運動の超政治性『日本教育』1-5、8月5日
- 忠霊塔と国民感情／人口戦の意義[「時の話題」]『富民』13-8、8月5日
- 第三次近衛内閣の性格[「文化評論」]『帝国大学新聞』867、8月10日
- 生糸の米国依存清算／戦時生活の正義感[「時の話題」]『富民』13-9、9月5日
- 銃後に築く第一戦『サンデー毎日』20-42、9月28日
- 三国条約と日本の志向[「文化評論」]『帝国大学新聞』871、9月29日
- 七・七禁令[「時の七草」]『サンデー毎日』[20-43]、10月1日
- 日本の方向は一あるのみ『公民講座』203、10月1日
- 対日包囲陣と外交政策『大陸』4-10、10月1日
- 国民皆労の体制／紳士の観念[「時の話題」]『富民』13-10、10月5日
- 東條内閣への要望[「時論」]『早稲田大学新聞』228、10月29日
- 国際情勢と日本の立場『公民講座』204、11月1日
- 他力依存は禁物／国の実力[「時の話題」]『富民』13-11、11月5日
- 他信を伴ふ強い自信 東條内閣を性格づける時代性『サンデー毎日』20-49、11月9日
- 臨時議会を顧みて[「文化評論」]『帝国大学新聞』879、11月24日
- 海軍力の弱点を衝く『実業之日本』44-23、12月1日
- アメリカの欺瞞外交とその海軍力『富士』14-12、12月1日
- ドイツの世襲農地法／蜜蜂と蓮[「時の話題」]『富民』13-12、12月5日
- 国民一億の精神を発揮して衆院に“対外硬”の叫び『サンデー毎日』20-53、12月7日
- 日露戦争の頃『時局情報』5-12、12月10日
- 【「図書の窓(近頃よんで感心した本)」】『日本読書新聞』180、12月22日

1942(昭和17)年

- 農民の英雄的努力／農相の拓相兼撰[「時の話題」]『富民』14-1、1月5日

- 軍国議会の役割[「論説及時評」]『エコノミスト』20-4、1月28日
- 東條宣言と今議会[「文化評論」]『帝国大学新聞』887、2月2日
- 日本の三大戦争[「時の話題」]『富民』14-2、2月5日
- 一億国民の目前にひろげた新東亜建設の大地図『サンデー毎日』21-5、2月8日
- 「シンガポール陥落！この吉報を何処で聞いたか」『日本読書新聞』188、2月23日
- 「愛読書」『日本読書新聞』188、2月23日
- 大東亜戦争と農村[「時の話題」]『富民』14-3、3月5日
- 翼賛議会の本質[「論説及時評」]『エコノミスト』20-10、3月11日
- チャーチルの歴史的役割『実業之日本』45-6、3月15日
- 大東亜戦争を語る座談会『エコノミスト』20-13、4月1日[3月11日座談会於銀座藍水：水戸政治、塚田一甫、馬場秀夫、城戸又一、田中秀苗、石橋恒吾、後藤基治、平尾彌五郎]
- 翼賛選挙の意義『公民講座』209、4月1日
- 翼賛選挙[「週間時評」]『サンデー毎日』21-13、4月5日
- 亜細亜人の解放／指導人口[「時の話題」]『富民』11-4、4月5日
- クリップスの印度懐柔[「週間時評」]『サンデー毎日』21-14、4月12日
- 印度洋作戦の次に来るもの[「週間時評」]『サンデー毎日』21-16、4月26日
- 翼賛選挙の意義[「文化評論」]『帝国大学新聞』898、4月27日
- 私の書齋と蔵書『書齋』6-5、5月1日
- 総選挙迫る[「週間時評」]『サンデー毎日』21-17、5月3日
- 養蚕の前途／武運と武勲[「時の話題」]『富民』11-5、5月5日
- 五つの盟邦[「週間時評」]『サンデー毎日』21-18、5月10日
- 総選挙後の問題—新議会陣への日本の期待—『時局情報』6-5、5月10日
- 援英・援蔣路を遮断す[「週間時評」]『サンデー毎日』21-19、5月17日
- 新議会と新政治力[「論説及時評」]『エコノミスト』20-19、5月20日
- 珊瑚海海戦と米国民性[「週間時評」]『サンデー毎日』21-20、5月24日
- 大東亜戦争下の海軍記念日[「週間時評」]『サンデー毎日』21-21、5月31日
- 総選挙を省みて『公民講座』211、6月1日
- 新組翼政会と改組翼政会『公民講座』212、7月1日
- 事変の新性格[「文化評論」]『帝国大学新聞』909、7月13日
- 「どんな本が出てほしいか」『日本読書新聞』208、7月13日
- 欧州戦局と日ソ関係『公民講座』213、8月1日
- 早稲田の誇り[「時言」]『早稲田大学新聞』262、8月19日
- 印度独立問題『公民講座』214、9月1日

大東亜省の出現と内外地行政の一元化『実業之日本』45-19、10月1日

国民運動とインテリの動員『三田新聞』507、10月28日

農村の声を聞く[「論説及時評」]『エコノミスト』20-46、12月9日

1943(昭和18)年

国民的英雄意識の昂揚—昭和十八年を迎へて—『公民講座』218、1月1日

歴史の法則の明示 鈴木安蔵氏著「政治・文化の新理念」『帝国大学新聞』929、1月11日

駐日独大使更迭[「週間時評」]『サンデー毎日』22-2、1月17日

米大統領の教書[「週間時評」]『サンデー毎日』22-3、1月24日

中国参戦と前大戦[「週間時評」]『サンデー毎日』22-4、1月31日

第八十一議会の再休会明け[「週間時評」]『週刊毎日』22-5、2月7日

決戦議会再会[「週間時評」]『週刊毎日』22-6、2月14日

戦時の首相[「週間時評」]『週刊毎日』22-7、2月21日

南太平洋戦の新段階[「週間時評」]『週刊毎日』22-8、2月28日

傲れる米英の思惑[「世界戦局の展望」]『実業之日本』46-5、3月1日

利潤観念と財産観念[「論説及時評」]『経済毎日』21-9、3月3日

満州国の建国記念日[「週間時評」]『週刊毎日』22-9、3月7日

陸軍記念日[「週間時評」]『週刊毎日』22-10、3月14日

欺瞞米国の弱点を衝く『外交評論』23-4、4月1日

内閣顧問の役割[「週間時評」]『週刊毎日』22-13、4月4日

軍票の今昔[「週間時評」]『週刊毎日』22-14、4月11日

樺太と琉球[「週間時評」]『週刊毎日』22-15、4月18日

北阿戦線の重大性[「週間時評」]『週刊毎日』22-16、4月25日

出世主義教育について[「週間時評」]『週刊毎日』22-17、5月2日

岡部文相に望む[「文化評論」]『帝国大学新聞』943、5月3日

東条首相の政治感覚[「週間時評」]『週刊毎日』22-18、5月9日

二つの戦争とその指導者『時局情報』7-5、5月10日

内閣改造と翼政の改革[「論説及時評」]『経済毎日』21-17、5月11日

文化の戦ひと文化勲章[「週間時評」]『週刊毎日』22-19、5月16日

海軍記念日に思ふ[「週間時評」]『週刊毎日』22-20、5月23日

翼政会の新機構と新陣容[「週間時評」]『週刊毎日』22-21、5月30日

夏目漱石『臨床文化』13-8、5月

緬印国境戦と華府会議[「週間時評」]『週刊毎日』22-22、6月6日

東郷精神と山本精神[「週間時評」]『週刊毎日』22-23、6月13日

嗚呼アツ島の勇士[「週間時評」]『週刊毎日』22-24、6月20日

第八十二議会の意義[「週間時評」]『週刊毎日』22-25、6月27日

横線から『大日』299、7月15日

地方行政協議会の発足『実業之日本』46-15、8月1日

日本人と風呂『臨床文化』14-10、9月

国民の新聞『日本新聞報』33、9月9日

横線から『大日』305、10月15日

イタリアの脱落と欧州戦局『実業之日本』46-19、10月1日

回顧『臨床文化』14-11、10月

国家要員と国家哲学[「論説及時評」]『経済毎日』21-34、11月1日

1944(昭和19)年

横線から『大日』310、1月1日

戦略と政略『実業之日本』47-4、2月15日

統帥・国務の輔弼道[「論説及時評」]『経済毎日』22-6、3月15日

国分青涯翁追憶『日本及日本人』431、5月8日[座談会：横矢重道、寒川鼠骨]

苦難の峠を越へよ まづ国難の正しい理解が必要[「週間時評」]『サンデー毎日』23-31、8月6日

この史実を活かせ『放送』4-9、9月1日

[「決戦下わが文学に望む」]『文芸』1-1、11月1日

大野画伯追悼座談会『日本及日本人』437、11月8日[座談会：長谷川如是閑、都築真琴、村岡応東、山中古洞、正宗得三郎、増山隆方、寒川鼠骨、三田村鳶魚、溝部みゆき]

妙味含む最高戦争指導 民心把握に政治勢力を集約『大学新聞』15、12月1日

1945(昭和20)年

万世の為に太平を開く 大詔を拝誦して『[大阪]毎日新聞』9月12～17日[『毎日新聞』9月13、14、18、19日]

平和国家への道『現代』26-10、10月1日

合理的に考へる能力を一議会政治今後の運営の焦点と課題―[「日本政治の転換と課題」]『大学新聞』40、10月1日

真の議会政治と総選挙の意義[「特輯 民主政治への前進」]『時局情報』9-12、11月1日

政治と文芸『文芸』2-8、11月1日

元老重臣責任論—元老重臣の政治史的意義と其の戦争責任—[「特輯：昭和二十年の回顧」]『公論』8-12、12月1日

民主主義と憲法改正[「憲法改正を繞る諸問題」]『時局情報』9-13、12月1日

1946(昭和21)年

封建政治の無政治性[「日本の封建遺制の検考」]『エコノミスト』24-1、1月1日

第二維新『現代』27-1、1月1日

一記者の新聞観『実業之日本』49-2、2月1日

明治史に観る現代日本の禍根『時局情報』10-3、3月1日[座談会：阿部眞之助、鈴木安藏、土屋喬雄、上杉重二郎]

内的行動の人『真善美』3、3月8日[『近代作家追悼文集成 31 三宅雪嶺・武田麟太郎・織田作之助・幸田露伴・横光利一』(ゆまに書房、1997年)収録]

幣原から吉田へ『政界ジープ』1-1、8月1日

憲法の基本的人権と労働権『労働評論』1-3、9月1日

知識階級の顛落[「人民評論」]『夕刊新大阪』228、9月20日

原敬は官僚か[「思ひ出の政治家」]『政界ジープ』1-3、10月1日

住宅国営[「人民評論」]『夕刊新大阪』293、11月25日

地方自治制度の改正について—自治・自律・自覚の基本様式—『農民』1-5、12月1日

東大問題の解決点[「人民評論」]『夕刊新大阪』305、12月7日

1947(昭和22)年

[「わが待望する宗教 葉書回答」]『二陣』2-1、2月1日

民主主義と教育[「人民評論」]『夕刊新大阪』374、2月15日

三宅雪嶺先生を語る『三宅雪嶺先生を語る』(帝都出版株式会社)4月25日[座談会：長谷川如是閑、高島米峰、白柳秀湖、辰野隆、野依秀市、柳田泉、木村毅、長谷川峻]

六・三制と学問的環境[「六・三・三・四制を語る」]『螢雪時代』17-2、5月1日

人民と役人『女性改造』2-9、11月1日

政治家の映像 伊藤博文 山県有朋 桂太郎『政界ジープ』2-11・12、12月1日

1948(昭和23)年

食生活から見た歴史と人物『農民』3-1、1月1日

美しい国とは『観光』17、2月1日

初期の経済記者[「随筆」]『エコノミスト』26-8、3月11日

漱石と鴉外 その新聞関係について『芸林間歩』21、4月1日

人間の統制『月刊労働組合』1-3、6月1日

タカラ・テル著「ミソクソその他」[「四百字書評」]『週刊朝日』52-26、6月27日

輿論と信念『国鉄情報』6、6月30日

犯罪を生む政治『青年の世界』28、7月1日

疑獄物語『サンデー毎日』27-43、10月24日

芦田第二次内閣とちんぴら強盗『サンデー毎日』27-52、12月26日

1949(昭和24)年

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-1、1月1日

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-2、2月1日

政局を『黒幕』に聞く『夕刊新大阪』1102、2月18日[古島一雄との対談]

行政整理随想『公務員』4-3、3月1日

連立内閣論『再建』3-3、3月1日

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-3、3月1日

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-4、4月1日

選挙・政党・党首を語る『塔』1-4、4月1日[座談会：馬場恒吾、野村秀雄、有竹修二]

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-5、5月1日

政界風流譚－政治家と女群－『政界ジープ』4-6、6月1日[座談会：前田蓮山、阿部真之助、山浦貫一]

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-6、6月1日

[巻頭言「鐘」の有竹修二・新垣秀雄との分担執筆]『塔』1-7、7月1日

保守合同『再建』3-8、10月1日

1950(昭和25)年

日本の宰相－吉田首相を中心として－『改造』31-1、1月1日

高級官吏の試験『公務員』5-1、1月1日[座談会：巖山政道、阿部真之助、山口正吾、高野信]

無理をしないで[「わが人生観・死生観・処世観」]『世界仏教』5-1、1月1日

楚人冠のプロフィール 大記者と名記者『中央大学新聞』300、4月20日

[「焦眉の急務」]『新週報』1-6、5月1日

憲政の三恩人『ニューエイジ』2-7、7月1日

"絶望型"の商品か『図書新聞』59、8月16日

[「アンケート 朝鮮事件とわれらの態度」]『労働評論』5-10、9月1日

軍隊と警察 自衛権の問題[「国内ニュース」]『中学時代』2-10、10月1日

外交と軍備[「国内ニュース」]『中学時代』2-11、11月1日

戦後外交家の役割[「国内ニュース」]『中学時代』2-12、12月1日

黒幕政治家 伊沢多喜男の政界秘話『毎日情報』5-27、12月1日

アメリカ中間選挙のえがいた波紋『実業之日本』53-23、12月1日

1951(昭和26)年

日本はどうか?『学苑』12-1、1月1日

論説を語る『新聞協会報』690、1月1日[座談会：千葉雄次郎、近藤操、直海善三、笠信太郎]

公務員と官公吏[「国内ニュース」]『中学時代』2-13、1月1日

波多野完治著現代文章心理学[書評]『図書新聞』81、1月31日

鼻糞をほじる日本人[「小さくない問題」]『中央公論』66-2、2月1日

超党派外交の意味[「国内ニュース」]『中学時代』2-14、2月1日

道徳・政治・教育『展望』62、2月1日[座談会：宮原誠一、上飯坂好実、中野重治、清水慶子]

歴史は繰り返す[「国内ニュース」]『中学時代』2-15、3月1日

[「読書だより」]『日本読書新聞』583、3月7日

波多野勤子著少年期[ハガキ書評]『出版ニュース』161、5月1日

大新聞と大記者『展望』66、6月1日

トルーマンの反共共栄政策[「世界巨頭の真意をさぐる—その戦争と平和に対する考え方—」]『学苑』12-10、10月1日

1952(昭和27)年

新聞記者時代『新聞協会報』843、844、6月30日、7月3日

1954(昭和29)年

誰よりも偉大[文責在記者]『サンデー毎日』33-1、1月3日

協調的態度が必要[「政局をどう收拾するか」談]『毎日新聞』6月8日

座談会 時代と新聞—大阪朝日筆禍事件回顧—[「日本における自由のための闘い」]『世界』103、7月1日[座談会：長谷川如是閑、杉村武、吉野源三郎]

これより大きなウソはない 新聞はウソを書くという話『毎日新聞』10月3日

半世紀の記者生活『早稲田学報』8-10、12月15日[11月4日鼎談(於大隈会館)：小田嶋定吉、阿部賢一]

3. 「余録」(『東京日日新聞』『毎日新聞』)

- ・収録書は、以下の略号による。③『事变下の日本』、④『硯滴・余録』、⑤『余録二十五年』
- ・なお、収録書の「余録」は、収録に際して修正・削除が施されている。また、丸山幹治執筆以外の「余録」も含まれている。

1937(昭和12)年

盧溝橋事件 7月9日③、⑤	蒋政権の見透し 8月22日③
支那の声明 7月10日③	議会の形式化 8月23日③
北支派兵の声明 7月12日③	金の洪水 8月24日③[掲載未確認]
挙国一致 7月13日③	陸軍上海上陸 8月25日③
外人の支那観 7月16日③	英の上海中立地帯案 8月26日③
英外相の憂慮 7月17日	支那兵は強いのか 8月27日③
事件不拡大方針 7月18日③	英大使の禍 8月28日③
隠忍自重の限界 7月22日③	支那へ行くベランカ機 8月29日③
戦時の特別議会 7月23日③	支那の日本観 8月30日③
偽装の友軍 7月27日③	蘇支不可侵条約 8月31日③
各相の演説 7月28日③	技術拙劣の信用 9月1日③
第二十九軍攻撃 7月29日③	輿論に勝てぬ大統領 9月2日③
軍閥の私兵 7月30日③	蘇聯と支那 9月3日③
殷汝耕君 8月1日③	議会の両面 9月5日③
米国と中立法 8月2日③	日本の交戦目標 9月6日③
香月司令官放送 8月3日③	国民使節 9月7日③
通州事件 8月4日③、⑤	英国の抗議 9月8日③
蔡廷楷 8月6日③	戦時体制 9月9日③、⑤
弱者の不正義 8月7日③	伊ソの摩擦 9月10日③
自由の限度 8月8日③	上海戦の意義 9月11日③
侮れぬ支那兵 8月9日③	支那連盟へ提議 9月12日③
世界教育会議 8月10日③	首相の街頭第一声 9月13日③
北支の現地解決方針 8月11日③	英首相の現実主義 9月14日③
後顧の憂を除く 8月12日③	自治統制 9月15日③
抗日商売 8月13日③	米国中立法の意義 9月16日③
上海とは何ぞ 8月14日③、⑤	遊撃戦術 9月17日③
支那の飛行機 8月15日③	米紙の決意 9月18日③
九国条約とは 8月16日③	心腹の患 9月19日③
海軍航空隊 8月17日③	国民使節と宣伝 9月20日③
臨時議会召集 8月18日③	南京空爆の通告 9月21日③
支那機の上海空爆 8月19日③	支那兵強し 9月22日③
韓非子の亡徴 8月20日③	空爆通告の反響 9月23日③
英の上海出兵 8月21日③	英大使負傷事件解決 9月24日③
	ソ聯の現金主義 9月25日③

米大統領と独裁 9月26日③
 蒋介石、国民党、共産党 9月27日③
 日本の正直 9月28日③
 戦争の人道化 9月29日③
 代用品奨励 9月30日③
 日本離間は駄目 10月1日③
 戦時の貿易 10月2日③
 都市空爆の発明者 10月3日③
 英米の反日大会 10月4日③
 列国の耳が痛い 10月5日③
 地中海波高し 10月7日③
 勝手な理論 10月7日③
 シャムの棄権 10月8日③
 言葉は言動を生む 10月9日③
 孫逸仙と日本 10月10日③、⑤
 英国の良心 10月11日③
 勝利に驕らぬ 10月12日③
 内閣参議 10月13日③
 米労働団体の反日 10月14日③
 地中海を争ふもの 10月15日③
 北支と原料 10月16日③
 内藤湖南の支那論 10月16日③
 森林の保護 10月17日③
 日本と九国会議 10月18日③
 英国外交とイデオロギー 10月19日③
 衆知と衆力 10月20日③
 招請の口上 10月21日③
 文相更迭 10月22日③
 ソ聯の敵 10月23日③
 大隈侯の支那論 10月24日③
 連盟の三銃士 10月25日③
 持久戦と経済力 10月26日③
 日本を知るキャツセル氏 10月27日③
 わが回答書 10月28日③
 ソ聯と九国会議 10月29日③
 蒋介石の豪語 10月30日③
 英艦砲撃事件 10月30日④
 英国の正体 10月31日③
 大本營の設置 11月1日③

日清戦争当時の列国 11月2日③
 米国外交の二重性 11月3日③
 英米の協力 11月4日③
 在満治外法権の撤廃 11月5日③
 日独伊防共協定 11月6日③、⑤
 米国と蘇聯 11月7日③
 死の同盟 11月8日③
 蘇聯の総選挙 11月9日③
 文官任用令改正 11月10日③
 日本の脚は銅鉄 11月11日③
 英国東洋艦隊 11月12日③
 英国と三国協定 11月13日③
 新国策会社 11月14日③
 支那を煽動するもの 11月15日③
 社大党の表看板 11月16日③
 イーデン外交 11月17日③
 大本營設置 11月18日③
 民衆の外交常識 11月19日③
 南京遷都宣言 11月20日③
 大本營と内閣制察 11月22日③
 孫文の墓 11月23日③、⑤
 外交官の行方 11月24日③
 防共協定一周年 11月25日③
 対支文化工作 11月26日③
 官気と民気 11月27日③
 蒋介石の背後のもの 11月28日③
 ビヤード博士の米國論 11月29日③
 伊太利の満州国承認 11月30日③
 英国の批判主義 12月1日③
 一三年度予算 12月2日③
 英独会議の結果 12月3日③
 媾和の相手 12月4日③
 第三国との媾和 12月5日③
 英国と三国干渉 12月6日③
 ソ聯の排外教育 12月7日③
 南京陥落の第一報 12月8日③
 宇垣参議と外人記者 12月9日③
 誤謬の犠牲 12月10日③
 松井指揮官の勸降文 12月11日③

歴史的録音 12月12日③
 三つの日本に対する誤算 12月13日③
 日本人の道徳的誇負 12月14日③
 末次新内相 12月15日③
 パネー号砲撃事件 12月16日③
 南京入城式 12月17日③

1938(昭和13)年

日本は自力で戦ふ 1月1日④
 日支の民族性 1月3日④ [「日シの民族性」と改題⑤]
 朝鮮の志願兵制 1月7日④
 二重生活もよい 1月13日④
 蒋介石 1月28日④
 フランコ将軍 2月2日④
 国防の自主性 2月7日④
 憲法発布五十年 2月11日④
 愛国愛民 2月12日④
 日本の建艦と米国 2月15日④
 総動員法の審議 2月24日④
 議会の憲法論 2月26日④
 国防の自主性 2月7日④
 支那は民主国か 2月28日④
 幸福な役人 3月2日④
 東西の議会人 3月3日④
 尾崎学堂とロイド・ジョージ 3月3日⑤
 壙国合併 3月14日④
 英雄の稚気 3月15日④
 マルコ・ポーロ 3月21日④
 比島独立延期 3月23日④
 焦土政策 3月29日④
 英米の再軍備 4月1日④
 物価騰貴の抑制 4月7日④
 独壙合併 4月12日④
 金の献納、売却 5月2日④
 会談外交 5月6日④
 徐州戦線 5月16日④
 メツケル少佐 5月18日④
 空襲の備へ 5月24日④

支那の軍事顧問 5月29日④
 支那の聖人 6月16日④
 黄河の決壊 6月21日④
 海南島 6月27日④
 衣装法度 6月30日④
 富国弱兵 7月2日④
 英国膨張史 7月6日④
 事変一週年 7月7日④
 蒋介石の民主主義 7月8日④
 山を荒す自由 7月9日④
 金製品の買入れ 7月13日④
 連盟本部 7月14日④
 世界の良心 7月15日④、⑤
 山禍・水禍の国 7月23日④
 日ソ会談 7月24日④
 内閣機構 7月26日④
 家庭の埋蔵資源 8月1日④
 転出業の初段階 8月5日④
 家賃、地代抑制 8月6日④
 張鼓峯事件 8月7日④
 大学の自治 8月11日④
 日ソ停戦協定 8月12日④
 日ソ衝突 8月13日④
 日支文化交流 8月17日④
 ソ連の鎖国 8月24日④
 農民離村 8月26日④
 不戦条約 9月1日④
 文化生活の脆弱 9月2日④
 チアノ伯 9月3日④
 日本的生計と下駄 9月5日④⑤
 漢口攻略戦 9月8日④
 日英同盟 9月15日④
 無名の英雄 10月9日④
 戦時の娯楽 10月12日④
 徳王の謁見 10月23日④
 ドイツの人口政策 11月11日④
 事変下の文学者 11月14日④⑤
 日独文化協定 11月26日④
 ユダヤ問題と米国 11月17日④

倭寇と日本刀 12月19日④
 ビスマルク 12月31日④

1939(昭和14)年

汪の精神 1月10日④
 修正三民主義 1月24日④
 婦人の政治力 1月27日④
 日本認識 2月19日④
 曾仲鳴の死 3月25日④
 英国の戦術 4月16日④
 新南群島 4月19日④
 支那の人口 5月12日④
 魚食国民 6月10日④
 汪主席入京 6月17日④
 支那といふ言葉 6月17[?]日④
 前大戦と軍事通 6月20日④
 晩婚の理由 7月5日④
 事変二ヶ年 7月7日④
 食糧輸出 7月16日④
 米人と杞人 7月16日④
 日英東京会談 7月19日④
 外交語 7月25日④
 ユダヤ人の天国 7月26日④
 物の民間貯蔵 8月1日④
 独帝と日本 8月12日④
 英国の対日外交 8月15日④
 役人の法律 8月17日④
 ロシア幼獺 8月22日④
 ノモンハン停戦 9月17日④⑤
 ニツボン号の成功 10月11日④
 米大使の土産 10月21日④
 ガンヂー 11月5日④
 煙草の値上 11月17日④
 シュペー号の最後 12月19日④
 ソ芬戦争 12月21日④
 小売許可制 12月22日④

1940(昭和15)年

軍民被服の近接 1月30日④

対日媚態 4月6日④
 ダニューブ河 4月11日④
 日本と蘭印 4月16日④
 国土計画 4月17日④
 比島の排日 5月4日④
 戦争の科学 5月22日④
 ドイツの代用品 6月11日④
 印度の三大勢力 6月23日④
 帝政外交型 7月12日④
 新フランス 7月14日④
 統帥と国勢 7月20日④
 ショーの皮肉 7月21日④
 外国諜報網 7月31日④
 職工と大学教授 8月27日④
 日ソ新関係 9月11日④
 兵科と兵種 9月12日④
 フランスの脆さ 9月13日④
 統制の計画化 9月26日④
 三国条約 9月29日④⑤
 米国の安全性 10月3日④
 ビルマ・ルート 10月10日④
 精神的去勢 10月26日④
 空爆下の英都 11月1日④
 文化勲章 11月12日④
 英米支同盟 11月19日④
 元老の終焉 11月24日④
 政治家と国葬 11月26日④
 政治医の信用 12月1日④
 民族の生活力 12月4日④
 ラヴァル失脚す 12月20日④

1941(昭和16)年

戦陣訓 1月9日④
 米国式の論理 1月17日④
 人口増加政策 1月18日④
 ペタン元帥 1月19日④
 生糸の内需 1月30日④
 国家機密 2月1日④
 太平洋の平和 2月6日④

- 現状維持も危険 2月16日④
 革新の適正性 2月19日④
 秦・仏印の調停 3月4日④
 武器貸与法 3月11日④
 学校差 3月19日④
 婦人服の改善 3月21日④
 国民礼法 3月24日④
 判検事的人格 3月25日④
 英語と独逸語 3月29日④
 技術者の責任 4月5日④
 英国の古手 4月19日④
 米大統領 4月27日④
 リンドバーグ氏 5月1日④
 バルカン戦局 5月2日④
 東京開港 5月3日④
 迷信駆逐 5月6日④
 ビスマルク号 6月1日④ [「ビスマルク号の最後」と改題⑤]
 支那の知識 5月25日④
 予防拘禁 5月20④
 蘇峰と雪嶺『日本評論』16-6、6月1日
 指導者賛美 6月4日④
 米国の極東政策 6月5日④
 フーヴァー氏の勧告 6月15日④
 ソ連の戦線 6月25日④
 汪氏放逐 6月26日④
 独ソ戦の予想難 6月27日④
 金鶏勲章 6月29日④
 独ソ相搏つ 7月2日④
 石油と生糸 7月3日④
 事変満四周年 7月6日④
 重臣会議 7月8日④
 東北の人口増加率 7月8日④
 地理的新体制 7月11日④
 ドイツの誤算 7月14日④
 赤軍を知る 7月16日④
 革新の順序 7月17日④
 第三近衛内閣 7月18日④
 要塞戦 7月26日④
 国力と国民精神 8月2日④
 赤軍の頑強性 8月2日④
 臨戦体制といふこと 8月6日④
 国民の家計 8月7日④
 労将と弱将 8月9日④
 山田長政 8月12日④⑤
 坪上泰大使 8月17日④
 セツの海 8月21日④
 独ソの血戦 8月23日④
 元寇と倭寇 8月27日④
 イランの運命 8月27日④
 官界新体制 8月28日④
 日本海の安全感 8月30日④
 新生活体制 8月31日④
 国民皆労 9月2日④
 レニングラード 9月5日④
 近代戦は動員戦 9月6日④
 防空と恐空 9月7日④
 グーリア事件 9月9日④
 外米の階級性 9月11日④
 青年の真価 9月12日④
 金属回収 9月11日[13?]④
 イランの今昔 9月18日④
 英米合邦論 9月19日④
 赤軍の勇氣 9月20日④
 鉄製品の製造 9月23日④
 日本の革新思想 9月27日④
 十月の独ソ戦 10月1日④
 ロだけの戦ひ 10月14日④
 英米の対ソ援助 10月15日④
 車中談廢止 10月21日④
 新生活様式 10月10日④
 大詔渙発 12月9日④[「事既に此に至る」と改題⑤]
 壮烈な轟沈 12月10日⑤
 南米と日米戦争 12月21日⑤
 国際法の仮面 12月23日⑤

1942(昭和 17)年

日比の歴史的関係 1月4日⑤
 金鷄勲章功一級 3月22日⑤
 戦時下の選挙 4月7日⑤
 インドの運命 8月6日⑤
 国政素乱罪 8月28日⑤

1943(昭和 18)年

銭湯の中、汽車の中 5月21日⑤
 山本元帥の遺骨 5月23日⑤

1945(昭和 20)年

硫黄島の血戦 3月22日⑤
 軍人政治家鈴木貫太郎 4月7日⑤
 幣原内閣の解剖 10月9日⑤
 重臣層の戦争犯罪 10月19日⑤

1946(昭和 21)年

河上博士の見たもの 2月1日⑤
 山下大将の死刑 2月9日⑤
 旧悪露見か 4月30日⑤
 鳩山一郎氏の追放 5月5日⑤
 手数を掛けた吉田総裁 5月16日⑤
 新憲法の客観的条件 11月4日⑤

1947(昭和 22)年

神保中佐の陰徳 7月1日⑤
 夜の女の世界 10月7日⑤
 河上肇自叙伝 12月5日⑤

1948(昭和 23)年

平野農相の追放 1月23日⑤
 帝銀事件 1月29日⑤
 不浄の政界 4月15日⑤
 美濃部博士逝く 5月25日⑤
 太宰治の情死 6月17日⑤
 グルー氏の滞日十年 9月16日⑤
 新聞週間 9月30日⑤
 昭電疑獄の急所 10月9日⑤
 ウエップ裁判長の言葉 11月14日⑤

酔払いの蔵相 12月15日⑤

1949(昭和 24)年

首相の文化感覚 1月19日⑤

1950(昭和 25)年

消息不明の抑留日本人 2月3日⑤
 原敬日記 3月24日⑤
 池田蔵相の家主 3月25日⑤
 日本の名物はスリ 4月13日⑤
 日共巨頭の追放 6月7日⑤
 地下にもぐった九人 7月18日⑤
 平沢検挙の功労者 7月31日⑤
 三鷹事件の判決 8月12日⑤
 暴君的騒音 8月14日⑤
 大岡越前の人気 9月25日⑤

1951(昭和 26)年

一家心中と一国心中 1月26日⑤
 老いらくの心中 2月8日⑤
 日本を去るマ元帥 4月12日⑤
 乗客百名黒焦げ 4月25日⑤
 マ元帥の証言 5月9日⑤
 子供の名前の制限 5月16日⑤
 三十八度線 6月28日⑤
 林芙美子の死 6月30日⑤
 アナタハンの日本人 7月5日⑤
 対馬は日本の領土 7月20日⑤
 野に帰った山川菊栄 7月25日⑤
 ゼントルマン・ファースト 9月6日⑤
 対日講和会議 9月7日⑤
 文化勲章と年金 9月29日⑤
 ワンマン英首相 11月2日⑤
 チャタレイ裁判 11月23日⑤

1952(昭和 27)年

違憲か忘憲か 3月11日⑤
 バラバラ事件 7月16日⑤
 日本人十二才の根拠 9月16日⑤

1953(昭和 28)年

失言首相の懲罰 3月3日⑤

皇太子の見送り 3月31日⑤